

下記のものは、香川県小豆郡内海町で開催された、「水源開発問題全国連絡会第11回総会」及び「小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会」（長野県知事・田中康夫氏の講演あり：500名を超える参加者あり）の参加者の満場一致で採択された「提言」です。これからの治水についての真剣な提言としてお受け取り下さい。

徳山ダム建設中止を求める会・事務局長

近藤ゆり子

（水源開発問題全国連絡会

ー共同代表：嶋津暉之・遠藤保男ーの世話人の一人）

＜治水にダムは無用＞

今年も各地で、異常降雨による激甚な水害が発生しました。その原因を探ると多くの共通点が見いだされます。

1. 想定規模をを超えた豪雨に対しては、ダムは無効どころか、大きな災害をもたらすものである。
2. これらの災害は、ダムに依存してきた体質が、河道整備を遅らせたことに起因することである。
3. 森林の荒廃が、保水力の低下をもたらし、併せて、流木による水害被害を拡大した。
4. これらの洪水被害で、構造において欠陥のある堤防が各地に存在し、それが破堤を引き起こし、甚大な被害をもたらした。

これらの事実を河川整備計画において、基本とすべきである。よって次のことを河川行政のあり方として提言する。

- 1) 森林整備を公共事業として、推進すること。
- 2) ダムを前提としない河道計画を立て、早急にそれを実現すること。
- 3) 堤防を総点検し、その問題箇所の強化工事を速やかに実施すること。
- 4) 膨大なダム建設予算を、河道整備、森林整備に置き換えること。
- 5) 住民主体で、遊水地や霞堤などの地域の特性に対応した洪水対策をとること。

水源開発問題全国連絡会 第11回総会 参加者一同
小豆島『海と山』からの水害を考える全国集会 参加者一同

2004年10月31日